

2018年12月27日

第3種郵便物認可

台湾離島の絵鮮やかに

澎湖島の芸術交流協会 糸満で力作展示

【糸満】台湾の澎湖県国際芸術交流協会のメンバー12人がこのほど、糸満市立中央図書館で「2018台湾澎湖—日本琉球芸術と文化交流展」を開催した。澎湖の海や自然、文化、町並みなどを描いた力作16点が展示され、訪れた人の目を惹きました。メンバーらが、糸満市役所に上原昭市長を訪ね、展示会の報告をした。



澎湖は台湾の離島で、美しい海が魅力の島。国頭村出身で元琉球政府行政主席の故大田政作氏が戦時中に台湾総督府の澎湖庁長を務めるなど、沖縄との縁も深い。大田氏が1943年に

創立した馬公高校は現在も続いており、国際芸術交流協会のメンバーの多くが卒業生という。

国際芸術交流協会は、ハワイやマレーシアなど海外で3回展示会を開いてきた。「海人の街」というつながりから糸満で初開催となった。日本台湾平和基金会（那覇市）の協力で来沖が実現し、6日から11日までの日程で糸満市摩文仁の台湾出身戦没者の慰霊碑「台湾之塔」や大田氏の出身の国頭村奥間も訪れた。

上原市長は「戦前から糸満の漁民も台湾へ行き、交流を深めている。今後も素晴らしい交流が続くことを期待している」と歓迎の言葉を述べた。

3回目の来沖で、糸満市は2度目の訪問という陳秉鐔理事長は「海人の街・糸満の風景は澎湖県と似ている。これからも沖縄と交流を続けたい」と語った。

メンバーらは国頭村の奥間自治会も訪問して地元の人たちと交流し、大田氏を描いた3作品を贈呈した。

◎澎湖島の自然や文化、町並みなどを描いた力作が展示された展示会◎上原昭市長（前列中央）に展示会の報告をした台湾の澎湖県国際芸術交流協会のメンバーら◎糸満市役所